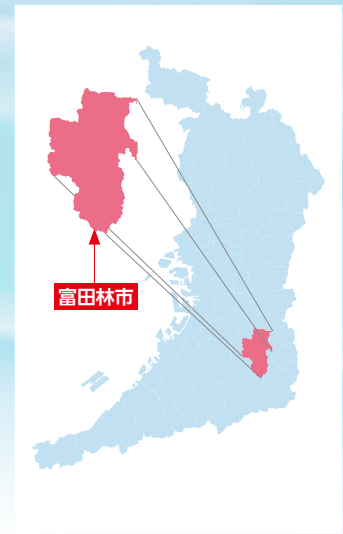


金剛駅周辺の ウォーカブルなまちづくり

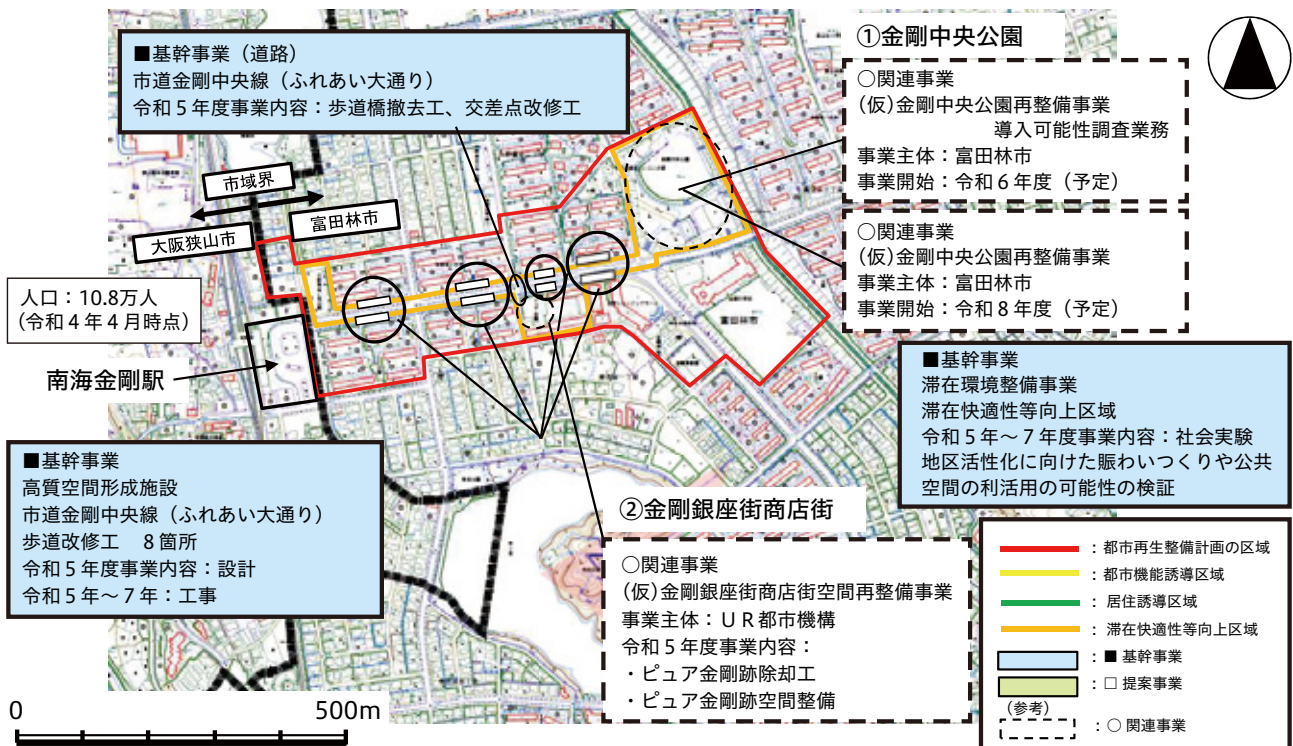


金剛地区（高辺台、久野喜台、寺池台）は昭和40（1965）年代に日本住宅公団（現UR都市機構）により開発され、都心部への良好なアクセス、充実した都市基盤と良好な住環境を備え、富田林市の西の玄関口として成熟してきました。しかし、開発後半世紀以上が経過し、人口減少、少子高齢化、諸施設の老朽化等のニュータウン問題が顕在化。老朽化した施設等の再整備や、都市空間の再編などによる都市機能の高度化等について検討を進める段階にきています。令和4（2022）年3月には、金剛中央公園、金剛銀座街商店街、南海金剛駅周辺、寺池公園の再整備に向けた「コンセプト」及び「施設・エリア毎の方向性と導入機能」を示す「金剛地区施設等再設備基本構想」を策定しました。基本構想では、金剛駅周辺において、地区活性化の中心軸となるふれあい大通りを「まちの顔」として、賑わいと多様な交流が生まれる滞留性のある空間へ再編するため、多様なステークホルダーと連携しながら、ウォーカブルな空間形成に向けた社会実験等を通じて、様々な可能性を検討することとしています。



■金剛地区まちなかウォーカブル推進事業

金剛地区の交通結節拠点である南海金剛駅を起点とし、金剛銀座街商店街を経由し金剛中央公園までの約520mにわたる「ふれあい大通り」を地域活性化の中心軸に位置付けるとともに滞在快適性等向上区域を設定し、回遊性・滞留性の向上や交流機会の創出、賑わいづくりや住民主体の多様な取組など、ウォーカブルな空間づくりに取り組めます。



■南海金剛駅周辺

南海金剛駅前については、魅力的で利便性の高い公共空間となるよう、関係ステークホルダーと連携し、生活利便性の向上、賑わいや交流が生まれる空間整備について検討します。

地域活性化の中心軸であるふれあい大通りについては、地域住民や関係事業者等と連携しながら、居心地がよく、人中心のウォークアブルな空間づくりに向け、ビジョンの作成や社会実験の実施に取り組むとともに、歩道橋撤去やUR都市機構による広場整備など、空間の一部再編を進めます。



<令和4(2022)年度の社会実験の様子>



■金剛中央公園

老朽化への対応や若者・子育て世代の定住促進に向けて、金剛中央公園をシンボル施設として優先的に再整備します。

再整備にあたっては、子育て支援機能や健康増進機能、交流機能を備えた多機能複合施設を整備するとともに公園空間のリニューアルを行います。

また、民間企業の投資や多様な創意工夫が期待できる官民連携手法（Park-PFI等）などから、より有効な事業手法を検討します。



■民間企業や市民に期待することなど

富田林市が進める「金剛地区の新たなまちづくり」においては、地区住民や事業者との積極的な連携・協働により地区再生・活性化を進めています。

金剛地区の都市空間の再編に向けて策定した「金剛地区施設等再整備基本構想」においても「マルチパートナーシップによる多面的な魅力の創出」を施設等再整備のコンセプトの1つに設定し、市民・団体・行政・民間企業等のあらゆる主体が、新たに地区内外の多様な主体の参画機会を確保しながら、適切な役割分担と相互理解のもと、さまざまな連携（市民協働・公民連携・民民連携等）により、課題解決や魅力向上に向けた取組を進めていくことを想定しています。

民間企業との共創により、開発から半世紀以上が経過した金剛ニュータウンの課題解決をめざしていきます。